北区の部屋だより

2017年12月

第101号

刊行物登録番号 28-2-097

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　平成 29 年 12 月発行

北区こぼれ話 第101回

時代と地形の谷間に広がった田畑
－終戦後、旧軍用地で食糧自給－

写真１

赤羽八幡ノ谷の農地
昭和 20 年代　渡辺肇氏撮影

写真 1 は、昭和 20 年代に、八幡ノ谷（桐ケ丘・赤羽台）を撮影したものです。中央に田畑が広がっています。右手の煙突は陸軍被服本廠（現、赤羽台団地）のものです。左側遠くにある横長の黒い台形は、陸軍第一師団工兵第一連隊（現、星美学園）の屋根です。これを撮影したカメラマンは、旧火薬庫付近（現、桐ケ丘団地）から北東の方向へレンズを向けています。その位置関係は、**図 1**『岩淵町郷土誌』掲載の地図でご確認ください。現在の東京北医療センターの位置には、戦前、近衛師団工兵連隊があり、その南側の八幡ノ谷には、これらの工兵隊が使う射撃場や作業場がありました。工兵隊とは、道路や橋をつくる部隊のことです。終戦後、区内の軍用地は、占領軍に接収され、戦車の修理工場などに使用されました。しかし、この射撃場や作業場については、食糧不足への対応として、地元住民に田畑として貸与されたのです。区内全体の統計では、旧軍用地のうち、5 反（約 4959 ㎡）が田んぼ、193 反（約 19 万 1406 ㎡）が畑、23 反（約 2 万 2810 ㎡）が採草地となり、農家でない 31 戸と従来からの農家 21 戸に貸与されたのでした（『北区史』昭和 26 年）。そのほとんどが、この一帯の土地と考えられます。

図１

『岩淵町郷土誌』（昭和 5 年）掲載の地図

食糧難の中で、人々は河川敷や焼け跡、庭など空いている土地で農作物を栽培しました。そして、家庭農園組合という組織を結成しました。種苗や農業資材の配給を受けるための組合です。昭和 24 年（1949）末の統計では、旧王子区に該当する地域で、2996 戸が 42 の家庭農園組合に参加していました。この地域の旧来からの農家の数は、143 戸に過ぎません。しかし、100 坪以上を耕作する世帯は 400 戸もあり、主食の作付面積が一定量を超える準生産世帯は 224 戸ありました。つまり、旧来からの農家以外でも、比較的大きな土地で農業をしていた家が少なくなかったということです。このような統計の背景には、旧軍用地の貸与という歴史があったのです。

写真２

都立城北高校の通学路
昭和 30 年頃　渡辺肇氏撮影

当時、旧火薬庫の北側には、都立城北高校がありました。赤羽駅から城北高校への道のりは遠く、**写真 2** のように、田んぼの畦道を歩いて通学する生徒もいました。のどかな田園風景です。但し、これらの土地での農業は長く続けられることはなく、桐ケ丘団地建設などとともに 10 年ほどで田畑は消えていきました。【地域資料専門員　黒川徳男】

今月の展示

テーマ：「名所江戸百景」に描かれた北区
期間：平成 29 年 11 月 25 日（土）～12 月 28 日（木）
場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

歌川広重晩年の大作である「名所江戸百景」。北区域は七つの風景が描かれています。今回の展示では、広重が描いた往時の風景と現在の北区の様子を比べながら、その移り変わりを見ていきます。

北区図書館活動区民の会：企画・運営
小学生向けワークショップ

「親子で謎解き！中央図書館ナイトツアー」

日時：平成30年1月14日（日）
午後4時45分～午後7時
場所：中央図書館3階ホールに集合

誰もいなくなった夜の図書館を大冒険。普段、何げなく利用しているこの場所は、実は・・・。親子で謎を解きながら歴史の核心に迫る！

対象：区内在住の小学生と保護者
（必ず保護者同伴）
定員：20 組（抽選）※６年生優先
申込：往復はがき または ファックスにイベント名、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号、（ファックス番号）、返信用裏面には申込む方の住所、氏名をご記入の上、12 月 17 日（日）（必着）まで。
※ファックス申込書は各図書館にあります。また北区ホームページでもダウンロードできます。
申込先：中央図書館図書係
〒114-0033　北区十条台 1-2-5
電話 03-5993-1125
Fax　03-5993-1044

北区図書館活動区民の会：企画・運営

歴史講演会
「渋沢栄一と城北地域の社会福祉事業」

日時：平成 30 年 1 月 27 日（土）午後 2 時～4 時
場所：**滝野川文化センター　第 1 学習室**
（滝野川会館内）
ご注意：中央図書館では、ありません

北区周辺には福祉・医療施設が多くみられます。その原点を渋沢栄一と近代福祉事業を牽引した養育院や瀧乃川学園との関わりを中心に考えます。

講師：桑原功一（くわばらこういち）氏（渋沢史料館副館長）
定員：50 名（抽選。区内在住在勤の方優先）
申込：往復はがきに講座名、郵便番号住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号、返信用裏面には申込む方の住所、氏名をご記入の上、１月 12 日（金）（必着）まで。
※視覚障害のある方は電話申込み可
※聴覚障害のある方はファックス申込み可
※手話通訳が必要な方は事前にご連絡ください
申込先：中央図書館図書係
〒114-0033　北区十条台 1-2-5
電話 03-5993-1125
Fax　03-5993-1044

北区の部屋だより 第102号

2018年1月

刊行物登録番号 28-2-097

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　平成 30 年 1 月発行

北区こぼれ話 第102回
区外へ一歩踏み出そう!! ～より深く北区を知るために～

現在、北区で生活している私たちは、どうしても「北区」という枠組みにとらわれてしまいます。しかし、よく考えればそれも所詮 70 年前に出来上がったもの。北区という狭い範囲に留まることなく区域を越え、もっと広い範囲で歴史を捉えた方がよいことも少なくありません。

かつての隅田川沿岸は、数多くの工場が立ち並ぶ煉瓦（れんが）の一大生産地域でした。その理由としては、材料となる良質な土が採取できたこと、そして燃料となる薪（まき）や出来上がった煉瓦の運搬に船が利用できる川沿いであったことなどが指摘されています。当然、この条件を満たすのに隅田川の右岸も左岸も関係ありません。しかし、これを語るときにはどうしても自治体の枠組みが顔を出してしまいます。

明治 44 年（1911）帝国陸地測量部 20,000 分の 1「王子」（部分）で確認できる煉瓦工場。

足立区立郷土博物館が刊行した『足立風土記（ふどき）地区編 3 江北』では、「足立の煉瓦工場の盛衰」として煉瓦産業の成立から衰退に至るまでが詳細に紹介されていますが、煉瓦工場の分布で記されているのは隅田川左岸、すなわち足立区域の工場のみとなっています。荒川区立荒川ふるさと文化館が行った平成 22 年度第 2 回企画展「煉瓦のある風景―あらかわの建築と煉瓦産業―」でも中心は荒川区内の工場で、隅田川流域煉瓦工場の一覧表はあるものの、地図に落した「あらかわの煉瓦建築・工場マップ」は当然荒川区内のもののみになっています。北区の場合では、平成 26 年に北区飛鳥山博物館で行われたスポット展示「北区のレンガ、明治の都市をつくる―堀船地区田中煉瓦文書にみる北区の近代産業―」になるでしょうか。その際には「北区周辺の煉瓦工場分布図」として足立区立郷土博物館の成果を参考にしつつ、より広い範囲で工場の分布を紹介していますが、副題が示している通り主な目的は堀船地区にあった田中煉瓦工場が所蔵していた歴史資料の紹介で、やはり北区内に残る煉瓦建造物のみが紹介されています。地域博物館の活動や刊行物の内容がその自治体の枠組みに規定されてしまうのはある種止むを得ないところがあるのかも知れませんが、一方で残念でなりません。

そこで、みなさんには北区から外に出てみることをお勧めします。この「こぼれ話」を読んでいただいている方々は、地域の、何より北区の歴史に興味をお持ちの方だと思います。そういった方にこそ区外の歴史にも興味をもっていただき、区外を歩いて欲しいと思います。大都市周辺の近郊農業や種苗業（しゅびょうぎょう）の話、近代産業や軍工廠（ぐんこうしょう）の話など、北区という枠組みに限定せず、もっと広い範囲でものごとを捉えた方がよいものはたくさんあります。さあ、みなさん、一歩区外に踏み出してみましょう。また新たな北区の姿が見えてくるはずですよ。　【地域資料専門員　保垣孝幸】

～今月の展示～

◇テーマ：北区周辺のわらべ歌と俗謡（ぞくよう）

◇期　間：1月5日（金）～1月24日（水）

◇場　所：「北区の部屋」企画展示コーナー

渡辺肇氏撮影　桐ヶ丘周辺　昭和20年代

どこかで聞いたことがある懐かしいわらべ歌。民衆に歌い継がれながらも、今では忘れ去られてしまった俗謡。
地元の人々による記録や『北豊島郡誌』には、そのような昔の歌が掲載されています。今回の展示では、北区域や北豊島郡において、生活や遊びの中で伝えられてきた歌について展示いたします。

～「北区の部屋」の利用法教えます♪～

「京浜東北線　埼京線
　　街と鉄道の歴史探訪」
生田誠著　H29/10/5 発行
（株）フォト・パブリッシング

■「北区の部屋」では、2人の地域資料専門員が日々地域資料の収集・整理を行っており、またその資料（写真）の提供もしています。
■左の冊子『京浜東北線　埼京線　街と鉄道の歴史探訪』にも、「北区の部屋」から資料提供された北区の懐かしい写真が20枚近く掲載されました。近年は「北区の部屋」の認知度も上がり、年々地域資料の利用申請者数も増えてきています。
■こう書きますと、TV局や出版社にのみ資料提供しているように見えますが、資料提供は一般区民の方にも広く行っています。例えば、

①赤羽に生まれて75年、半生を綴った自分史を作りたい！
②課題で戦前の滝野川を調べて発表することになった！！
③亡き祖父との思い出、飛鳥山公園にあった飛鳥タワーの写真が欲しい　……などなど。

■こんな時、「北区の部屋」へご相談くだされば、あなたの欲しい資料（写真）が見つかるかもしれません。申請方法はとても簡単です。ぜひ、「北区の部屋」を有効活用してください。

＜地域資料（北区の古い写真）の申請方法☆たった3ステップ♪＞

Ⅰ．中央図書館へ電話（5993-1125）し、地域資料専門員へ連絡を取る。
Ⅱ．具体的にどんな資料が欲しいか地域資料専門員に伝え、来館日を決める。
Ⅲ．資料データを入れるUSBメモリかCD-Rを持って「北区の部屋」へ！

※ 資料の中には利用方法に一部制約のあるものもございます。詳しくは地域資料専門員へお問い合わせください。

～滝野川で歴史講演会を開催します☆～

渋沢　栄一（1840～1931）

先月号でご案内した1月27日（土）開催の歴史講演会『**渋沢栄一と城北地域の社会福祉事業**』（北区図書館活動区民の会・地域資料部：企画・運営）は、滝野川地域に特化した内容となっています。**「地元の話を地元の会場で」**ということで、今回は会場を中央図書館から滝野川文化センター（滝野川会館内）へ移して行うことにしてみました。
歴史講演会への**申し込み期限は12日（金）**です。まだ間に合いますので、興味の持たれた方はぜひご参加ください。
※申し込み方法は、中央図書館図書係（5993-1125）までお問い合わせください。

北区の部屋だより

2018年2月

第103号

刊行物登録番号 28-2-097

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　平成 30 年 2 月発行

北区こぼれ話 第103回

「まいまいつぶろ」は、かたつむり ― 消えゆく東京方言 ―

昭和 7 年（1932）10 月、岩淵町・王子町・滝野川町は、東京市に編入され、王子区・滝野川区になりました。市域編入の前まで、これらの町は、東京府北豊島郡に属していました。北豊島郡の歴史や文化については『東京府北豊島郡誌』（北豊島郡農会、大正 7 年）に記録されています。この本には、わらべ歌や方言なども、詳しく載っています。その中には、つぎのような、かたつむりについての三つのわらべ歌が含まれています。

「まいまいつぶろや、湯屋に喧嘩があるから、角出せ、鎗出せ。」
「角出せ、鎗出せ、まいまいつぶろ、裏に喧嘩がある。」
「でんでんむしむし、かたつむり、お前のあたまは、どこにある、つのだせ、やりだせ、めだまだせ。」

また、方言の一覧表には、かたつむりについて「かたつもり、まいまいつぶろ、めんめっつぶろ」とあります。大正時代、北豊島郡では、かたつむりの呼び名として、まいまいつぶろ、でんでんむし、かたつもり、めんめっつぶろが、使われていたことになります。

よく調べてみると、このうち「まいまいつぶろ」は、代表的な東京方言の一つだったようです。民俗学者の柳田國男は、かたつむりの方言について論じた『蝸牛考』の中で「東京の蝸牛は現在はマイマイツブロ、京都ではデンデンムシが標準語の如く見られて居るが、双方の児童は大抵は此二つを共に知るのみならず、其上に更にカタツムリといふ今一つの語が有ることさへ承知して居るのである」（『柳田國男全集 5』筑摩書房）と述べています。柳田が『蝸牛考』を発表したのは、昭和 5 年（1930）のことでした。

明治時代までさかのぼれば、樋口一葉も「まいまいつぶろ」を用いています。小説『にごりえ』の中で「今は見るかげもなく貧乏して八百屋の裏の小さな家にまいまいつぶろの様になつて居まする」（『明治文学全集 30 樋口一葉集』筑摩書房）と書いています。この作品は、明治 28 年（1895）に発表されたもので、彼女は、内幸町（千代田区）生まれです。明治時代の都心でも「まいまいつぶろ」が使わていたのです。

一方、戦後の例では、女優の高峰秀子が『まいまいつぶろ』（河出書房新社）という自伝を書いています。彼女は、函館生まれですが、東京で育ち、幼少の頃から子役として活躍しました。この本の初版は、昭和 30 年（1955）映画世界社から発行されています。戦後の東京でも「まいまいつぶろ」を使うことがあったようです。

「まいまいつぶろ」のような東京方言が、標準語の普及の中で忘れ去られていったことは、北区の歴史を考える上でも、大事なことのように思われます。

【地域資料専門員　黒川徳男】

◆今月の展示

－石神井川に架かる橋－

◇期間：1月26日（金）～2月21日（水）
◇場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

東京都小平市花小金井南町に端を発し、北区堀船3丁目で隅田川に合流する石神井川。流路延長25.2kmのうち最下流部の3.81km部分が北区域にあたり、現在17の橋が架けられています。また、かつての流路に架かっている橋もあり、これも橋だったの？と驚くような橋もあります。今回の展示では、普段、何げなく渡っている石神井川の橋について、あれやこれやを紹介します。

◆公開歴史講座開催のお知らせ

ここが年貢の納めどき ～江戸時代の村と年貢～

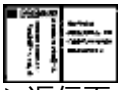
◇日時：3月17日（土）　午後2時～4時
◇場所：中央図書館3階ホール
◇講師：日本近世史研究家　保垣（ほがき）　孝幸（たかゆき）氏
◇定員：50名

江戸時代、領主や代官が村に期待した最も重要な役割が年貢の納入です。江戸時代の社会を考える上で基本であり、かつ最も重要な年貢について、専門家がわかりやすく解説します。

＜申し込み方法＞

・往復はがきにてお申し込みください。

▶往信面：①講演名、②郵便番号、③住所、④氏名（ふりがな）、⑤年齢、⑥電話番号。



▶返信面：ご自身の①住所、②氏名。

※視覚障害のある方は電話申込可。
※聴覚障害のある方はファクス申込可。
※手話通訳が必要な方は、事前に図書館ご連絡までください。

・申込期限：3月6日（火）必着

・申込宛先・問い合わせ先

〒114-0033　北区十条台1-2-5
中央図書館図書係・地域資料担当
TEL（5993）1125／FAX（5993）1044

◆ナイトツアー開催しました！

－親子で謎解き！中央図書館ナイトツアー 2018－

1月14日（日）、閉館後の中央図書館で**「親子で謎解き！中央図書館ナイトツアー」**（企画・運営：図書館活動区民の会）を開催しました。これは閉館後の図書館を探検し、図書館の秘密を解き明かしていく小学生対象（保護者同伴）のワークショップです。

ツアー開始時刻となり、颯爽と登場したのは**旅行会社『ポンコ・ツーリスト』**の企画責任者（実は「北区の部屋」の地域資料専門員）。でもツアーの説明はいいかげんですし、参加者に配ったガイドブックは空白だらけの未完成本のうえ、ツアー最大の見どころであるはずの**「図書館の秘密」**も抜け落ちていました。暗号のようなものもあり、さっぱり意味がわかりません。それなのに、何と企画責任者は「後は自分たちで調べてね！」とみんなをツアーに送り出してしまいました。

しかたなく、参加者たちはツアーを回りながら秘密を探ることに。途中、各ポイントでトラス構造の屋根やラチス柱について教えてもらいつつ、問題を解きヒントを集めてガイドブックに書き込んでいきます。難しい問題は親子が一緒になって挑戦し、最後は全員秘密にたどり着き、ガイドブックも無事完成しました。

親子参加型イベントのこともあり、謎解きや刻印探しのミッション等に親御さんも積極的に参加している姿が垣間見られました。アンケートでも、「レンガの刻印探しが楽しかった」、「図書館の秘密がわかって良かった」、「また親子で参加したい」等の感想が多く、みなさんにツアーを満喫していただけたようでした。

レンガ積み、うまく出来るかな？

▶お知らせ：2月の「北区の歴史を学ぶ会」は中央図書館臨時休館のため中止となりました。ご注意ください。

北区の部屋だより
第104号

2018年3月

刊行物登録番号 28-2-097

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　平成 30 年 3 月発行

北区こぼれ話 第104回

ここには昔、何があったの?!
～昔の北区の調べ方～

「北区の部屋」で仕事をしていると、北区に関する様々な問合せがあります。中でも最も多いものは、この場所に昔、何があったか知りたいという質問です。昔といっても、どれぐらい前を知りたいかによって調べ方も異なりますが、50 年ぐらい前でしたらその場所が何に利用されていたか「北区の部屋」で簡単に知ることができます。

みなさんは、「住宅地図」というものをご存知でしょうか。大縮尺で制作された戸別名（表札名）表示地図のことで、区内一軒一軒が掲載されている地図です。住宅地図最大手の「ゼンリン」という会社が発行している地図は、日本全国を対象にしており、東京都はほぼ毎年のように改訂されています。作り方は至って単純で、調査員が実際に現地を歩き一軒一軒表札を確認して回ります。しかし、その労力は膨大で、ゼンリンの場合、年間で延べ 28 万人の調査員が実際に現地を回っているそうです（『住宅地図』巻頭言「変わりゆく街の姿をお届していくために･･･」）。この地図は、交番に常備され道案内等に利用されるほか、宅配業者が車に備えて配達に利用するなど、様々な場所で活用されています。

さて、「北区の部屋」では、このゼンリンの住宅地図を 1981 年版から所蔵しています。それ以前はというと、公共施設地図航空株式会社が企画・調整し、住宅協会地図部編集室が編集した『全住宅案内地図帳』という住宅地図があります。この地図帳は、支店の設置やセールスマンの配置、販売量の決定など企業の販売活動を支援するための作戦地図として利用されることを想定し制作されたもので、東京都や大阪府、名古屋といった大市場圏を対象地域として刊行されました。東京都に含まれているので北区のものも存在します。こうして溯っていくと「北区の部屋」で所蔵している最も古い住宅地図は、住宅協会が発行した 1962 年版の『東京都全住宅案内図帳』、今から 56 年前のものになります（注）。

そして、実際に「北区の部屋」を利用する方で、最も利用頻度の高い本がこの住宅地図帳になります。不動産関係の会社の方が土地の履歴を調べるため利用することが多いのですが、それ以外にも、実際に自分が住んでいる場所の昔の様子を調べに来る区民の方もいます。職場体験に来館した中学生たちは、世の中にこんな地図があるのかと驚きつつ、自分の家や友達の家を探して盛り上がっています。丹念に見ていけば、商店街の店々の移り変わりなども確認することができますし、何より、ただ眺めているだけでも、昔、北区にこんなものがあったのかと新たな発見があります。今度の休みは、「住宅地図」を眺めつつ、昔の北区の街歩きなんていうのも面白いかもしれませんよ。

【地域資料専門員　保垣孝幸】

注：1962 年版の『東京都全住宅案内図帳』は、東京都立中央図書館所蔵本を、許可を得て複製・公開しているものです。

◆今月の歴史講演会・特別展示

「渋沢栄一と城北地域の社会福祉事業」

▸北区図書館活動区民の会　地域資料部企画・運営

◇期間：2 月 23 日（金）～3 月 29 日（木）

◇場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

今回の展示は、1 月 27 日（土）に滝野川文化センターを会場に開催した歴史講演会「渋沢栄一と城北地域の社会福祉事業」の関連展示です。本パネルの展示は、渋沢史料館副館長であり学芸員でもある講師：桑原功一（くわばらこういち）氏のお話をもとに、北区図書館活動区民の会・地域資料部が作成しました。

ー講演内容は以下のとおりですー

講師・桑原功一氏

北区周辺には福祉・医療施設が多くみられます。その原点を探るべく、今回の歴史講演会では、近代福祉事業を牽引した養育院（よういくいん）や滝乃川学園（たきのがわがくえん）と、それに関わった渋沢栄一にスポットを当てました。渋沢は日本資本主義の父と言われ実業家として有名ですが、実は社会福祉や教育等の社会事業に奉仕した人物でもありました。

養育院は明治維新後、目まぐるしく発展していく社会から取り残された生活困窮者（孤児、老人、病人、障害者等）を保護するため、1872 年（明治 5）本郷に設立されます。渋沢は 1874 年（明治7）に東京会議所共有金取締に嘱託され、養育院事務に関わるようになりました。

養育院は設立後、短期間の間に本郷→浅草→上野→本所とより良い環境を求めて何度も施設を移転しています。養育院事務長を経て 1885 年（明治 18）養育院院長に就任した渋沢は、入院者数増加や立地環境問題から施設拡張を求め、1896 年（明治 29）城北地域（大塚）へ移転、巣鴨・板橋にも分院を作って利用者の障害や状況に応じて収容先を分けるといった改善を図りました。城北地域が選ばれたのは、「東京近郊の広大で人里離れた土地」という条件に適（かな）っていたためです。また、渋沢の住居から近かったことも1つの要因と考えられています。

他にも渋沢は様々な社会福祉事業に携わりました。1921 年（大正 10）には知的障害児教育施設「滝乃川学園」創始者、石井亮一（いしいりょういち）・筆子（ふでこ）（渋沢の長女・歌子（うたこ）の学友）夫妻の財政危機への支援を開始し、石井夫妻を教育に専念させてあげたいとの思いから学園の理事長に就任し、学園の経営指導を引き受けました。

渋沢は養育院を始めとする慈善事業（社会福祉事業）の実践活動を通し、人として守るべきみち「人道」と「社会」を成り立たせることを目指したのです。このような渋沢の信条は、幼少の頃、世間から差別を受けていた人にも分け隔てなく接する母親の慈悲深い姿を見ていたことにより培われたのではないか、という桑原氏の説明に会場中が深い感銘を受けていました。

テーマはやや堅いものでしたが、受講者は熱心に耳を傾け、休憩時間には会場に用意した関係資料を手に取って読まれる等、地元の名士に対する関心の高さが伺われました。講師の桑原氏は地図や写真、文献等を駆使し、当時の日本の状況も交え、それぞれの関係性を丁寧に紐解いてくれたため、内容が飲み込みやすかったように思います。アンケートでも、渋沢栄一の実業家とは違う新たな一面を知ることができて良かった、興味深い内容だった等の感想を多くいただいていました。

映像を使って説明する桑原氏

～地域資料　こんなところで使われました♪～

「北区の部屋」では、地域資料（写真等）の貸出も行っています。その多くは書籍や歴史番組等で使用されることが多いのですが、今回は実際に使用された図書館所蔵の資料を 2 点ご紹介します。皆さんも地域資料を使って何か作ってみませんか？

↑記念展は 5/6(日)まで開催！

田端文士村記念館・開館 25 周年記念展のチラシ。「田端の春色」（大日本名所図会　第 78 編・東陽堂より）。

1970 年代の田端駅

↑田端駅のスタンプキャラクターはジオン軍士官、ランバ・ラル大尉とのこと。

JR 田端駅に設置されている機動戦士ガンダム・スタンプラリーのスタンプ台。TV アニメ放映当時の田端駅写真を展示。

北区の部屋だより

2018年4月

第105号

刊行物登録番号 29-2-124

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　平成 30 年 4 月発行

北区こぼれ話 第105回

桜の季節は王子電車の稼ぎどき
～月別乗客数・運賃収入から見た王子電気軌道の性格～

現在の都電荒川線は、戦前の王子電気軌道をルーツとしています。沿線住民には「王子電車」や「王電」と呼ばれて親しまれていました。

さて、この王子電車ですが、表に示したように、大正 11 年（1922）の 1 年間のうちで、乗客数・運賃収入ともに最も多かったのは 4 月でした。飛鳥山の花見客が、王子電車を利用したのです。王子電車側でも、車両を増発し、また、夜間の乗客誘致を図るべく、飛鳥山にイルミネーションを灯（とも）しました。イルミネーションといっても、電球入りの提灯（ちょうちん）のことです。

一般に、通勤通学路線は、8 月に乗客数が落ち込むと言われています。学生が、夏休みになるからです。一方、観光路線の場合は、夏休みの時期に通学客が減少しても、観光客が増加するため、全体としての乗客数はそれほど減少せず、むしろ増加する路線さえあります。逆に、2 月や 6 月については、観光や行楽は控えられがちで、観光路線の乗客数も減少すると言われてきました。

では、それらの点で、王子電車はどうだったのでしょうか。実は、王子電車の場合、7 月や 8 月に乗客数が急落することはなかったのです。むしろ、7 月は、年間を通じて 2 番目に多くの乗客数を記録し、8 月の落ち込みもゆるやかでした。王子電車の営業報告書の説明によれば、夏には水泳や納涼を目的とした客の呼び込みに成功したとあります。王子の石神井川周辺の料亭や、名主の滝への行楽客が、王子電車を利用したのです。また、秋には紅葉狩（もみじが）りを目的とした客を集めたという趣旨の記述があります。紅葉の名所、滝野川への行楽に利用されたのです。確かに、東京で紅葉が見頃を迎える 11 月、12 月の営業成績はそう悪くありません。一方、2 月と 6 月の乗客数は、その前後の月よりも少なめで、特に 2 月は最少です（日数を考慮しない場合）。

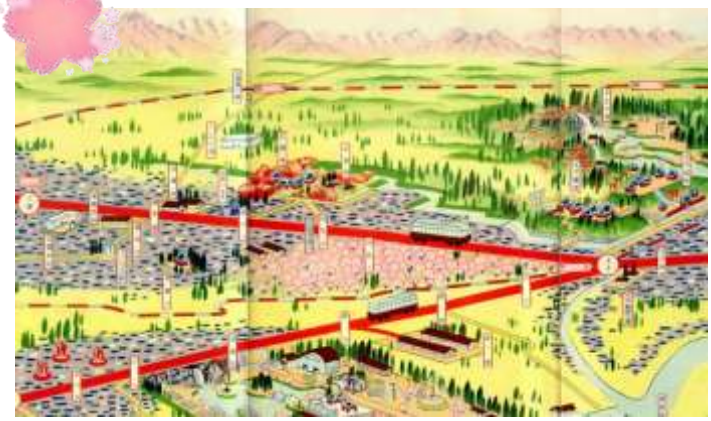
このように、月別の乗客数や運賃収入の変動という点から、王子電車を見た場合、東京近郊にありながら、通勤通学路線というよりは、観光路線としての性格が強かったと言えます。

【地域資料専門員　黒川徳男】

王子電気軌道の月別運賃収入　大正11年

月	日 数	乗客数（人）	運賃収入（円）
1月	31日	909, 651	44, 308
2月	28日	824, 622	40, 124
3月	31日	1, 010, 447	49, 328
4月	30日	1, 386, 847	69, 183
5月	31日	1, 149, 984	55, 862
6月	30日	1, 123, 574	45, 529
7月	31日	1, 311, 667	65, 019
8月	31日	1, 220, 521	60, 209
9月	30日	1, 246, 123	56, 644
10月	31日	1, 242, 872	59, 764
11月	30日	1, 222, 714	59, 526
12月	31日	1, 189, 146	57, 589

『王子電気軌道営業報告書』より抜粋



「王子電車沿線案内」（王子電気軌道、昭和2年）

祝☆刊行！
「TOKYO 北区の KITA みち ～目で見る北区の歴史～」

このたび、北区立中央図書館では、北区の歴史についてわかりやすく紹介した**『TOKYO 北区の KITA みち～目で見る北区の歴史～』**を刊行いたしました。

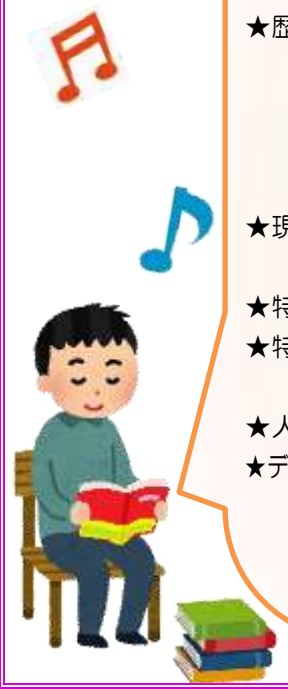
執筆者は、この「北区の部屋だより」にて連載している「北区こぼれ話」や「北区の歴史　はじめの一歩（全 7 地区）」の執筆でもおなじみ、「北区の部屋」黒川徳男（くろかわのりお）・保垣孝幸（ほがきたかゆき）地域資料専門員。北区のことなら何でも知っている 2 人が作成したこの本は、盛りだくさんの情報に、写真や図版を多く採り入れた、カラフルで見ているだけでも楽しい北区の歴史本となりました。また、巻末には各頁の関連場所を記した地図も載せていますので、本を片手に現地へ行けば観光ガイドにも使える優れものです。

４月１日（日）より北区立図書館全館で閲覧・貸出するほか、下記にて販売も行います。ぜひ、お手に取ってご覧ください。

『TOKYO 北区の KITA みち～目で見る北区の歴史～』
★本文 112 頁・A4 判サイズ・フルカラー印刷
★価格 500 円（税込）
★頒布場所：中央図書館「北区の部屋」・滝野川図書館・赤羽図書館
北区役所第一庁舎１階区政資料室・飛鳥山博物館
区内一部書店（※詳しくは中央図書館図書係 ☎5993-1125 まで）

◆『TOKYO 北区の KITA みち～目で見る北区の歴史～』の主な内容♪

★自然編：北区の地形は、京浜東北線の線路を挟んで東側の低地と西側の大地では 20m近い高低差があります。その各地域の地形の特徴を紹介します。
★歴史編：縄文時代～江戸時代、明治時代～昭和戦前、昭和戦後～平成の 3 つに分け北区の歴史を紹介します。北区にも古墳はあった？　江戸時代、3 代将軍家光と 8 代将軍吉宗は北区に遊びに来たことがある？　戦前、北区には兵隊や陸軍被服本廠等の軍事施設がたくさんあって、しかも中央図書館も元軍事施設だった！？　他、王子の狐、荒川放水路の掘削、岩淵水門の竣工、空襲、学童疎開まで北区の歴史を綴ります。
★現代編：北とぴあの展望ロビーから一望した街の景色や、また、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた区内スポーツ施設の充実とさまざまな試み等を紹介。
★特集１：石神井川は東京都小平市から端を発し、全長 25.2ｋｍに及ぶ一級河川です。
★特集２：北区は鉄道の街です。区内にある鉄道の駅のうち、区内で一番早く開業したのは王子駅で、赤羽駅や池袋駅、さらには新宿駅や東京駅よりも早かったのです。
★人物編：源頼朝、徳川吉宗、渋沢栄一、芥川龍之介等、北区に縁のある人物 22 名を一挙紹介！
★データ編：北区の人口統計、区内の小・中学校、公園、神社・寺院をデータ化し、網羅しました。



◇◆◇● 刊行記念特別展示 ●◇◆◇

人物でたどる北区の近代

―祝！刊行『TOKYO 北区の KITA みち～目で見る北区の歴史～』―

★展示期間：平成 30 年 3 月 31 日(土)～4 月 25 日（水）
★場所場所：北区の部屋　展示コーナー

「TOKYO 北区の KITA みち～目で見る北区の歴史～」刊行を記念し、「北区の部屋」にて関連特別展示を開催します。

この本の人物編では、北区の歴史を彩った 13 名の人物と田端文士芸術家村の人々を取りあげました。今回の展示では、その中から近代の北区域で活躍した 7 名の人物に焦点をあてて展示いたします。

◇◆◇● 刊行記念特別講演会 ●◇◆◇

北区立図書館８０周年・赤レンガ図書館１０周年記念企画

講演会『北区の KITA みち』徹底ガイド

「TOKYO 北区の KITA みち～目で見る北区の歴史～」刊行を記念し、特別講演会を開催いたします。講師は、執筆者でもある「北区の部屋」黒川徳男・保垣孝幸地域資料専門員が行います。それぞれがこの本をテキストに、各時代の歴史や人物にスポットを当て、さまざまな北区をご紹介いたします。皆さま、ぜひご参加ください！

（注意：テキストは図書館が用意いたします。）

★対象：両日参加できる方（区内在住・在勤・在学の方優先）
★日時：平成 30 年 5 月 12 日（土）・19 日（土）※両日とも午後 2 時～4 時
★場所：中央図書館３階ホール
★講師：5/12　日本近世史研究家　保垣　孝幸 地域資料専門員
5/19　日本近現代史研究家　黒川　徳男 地域資料専門員
★定員：50 名（抽選）
★申込：往復はがきの往信用裏面に講演名、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、返信用表面に申込者の住所、氏名を記入
★締切：平成 30 年 4 月 26 日（木）（必着）
★宛先：〒114－0033　北区十条台 1-2-5
北区立中央図書館図書係
TEL：03-5993-1125

古文書講座、開催します！

◆古文書入門講座

「古文書入門 ～初めてのくずし字～」

北区の古文書を題材に、くずし字の調べ方など初歩の解読を演習形式で行います。

★対象：18 歳以上の方
（区内在住・在勤・在学の方優先）
★日時：平成 30 年 5 月 11 日～6 月 15 日
毎週金曜日・全 6 回・午後 2 時～4 時
★場所：中央図書館 3 階ホール
★講師：日本近世史研究家
保垣（ほがき）　孝幸（たかゆき） 地域資料専門員
★定員：25 名（抽選）
★申込：往復はがきの往信用裏面に講演名、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、返信用表面には申込者の住所、氏名を記入。
★締切：平成 30 年 4 月 25 日（水）（必着）
★宛先：〒114－0033　北区十条台 1-2-5
北区立中央図書館図書係
TEL：03-5993-1125

公開歴史講座、盛況にて幕♪

◆公開歴史講座

「ここが年貢の納めどき ～江戸時代の村と年貢～」

3 月 17 日（土）、中央図書館にて、日本近世史研究家：保垣孝幸（ほがきたかゆき）地域資料専門員による北区域の村と年貢を題材にした公開歴史講座が開催されました。

近年、北赤羽の松澤家から江戸時代の文書群約 2,000 点が発見され、北区飛鳥山博物館で調査が行われています。江戸時代の武蔵国豊島郡袋村で名主を務めていた松澤家の文書は、村の運営に関わる公的なものが多く、特に年貢関係は 340 点あり、当時の北区域の村の状況や年貢制度等、今回初めて明らかになったことも多いとのことでした。

講義では北区域の年貢制度の概要を導入に、「袋村　松澤家文書」中の年貢関係文書を参考に袋村の年貢収取についての解説がありました。田の年貢は米、畑の年貢は金銭（永）で納めていたとのこと。同じ田んぼでも生産力に応じて年貢が割り付けられ（反取という）、出水により被害を受けた田畑は配慮されたそうです。そのため、年貢関係の文書を読むと、河川周辺地の開発状況やその年の水害状況等、地域の実態がわかるとのことです。

保垣講師は時々ユーモアを交えながら、用意した膨大な資料に沿って丁寧な解説を終了時間まで続け、大変充実した 2 時間となりました。

受講者からももっと続きが聞きたい、すぐに第 2 弾も開催してほしい等の要望を多くいただきました。

講師：保垣 孝幸氏

◇◆◇●作家、内田（うちだ） 康夫（やすお）氏を偲（しの）ぶ ●◇◆◇

本年 3 月 13 日（火）、「浅見光彦シリーズ」を世に出した旅情ミステリー作家で北区アンバサダーでもある内田康夫氏が、ご逝去されました。 謹んでご冥福をお祈りするとともに、お知らせいたします。

内田氏は 1934 年 11 月 15 日　東京都北区生まれ。旅情ミステリー作家の代表的人物として知られ、代表作「浅見光彦シリーズ」は何度もドラマや映画・漫画化されています。浅見光彦は北区西ケ原在住という設定だったため、飛鳥山や旧古河庭園を散歩したり、近所の和菓子屋で大福を買ったりと、どのシリーズにも北区が登場していました。内田氏には、作品を発表することで北区を全国に紹介していただいていたのです。

心から感謝と哀悼の意を表すとともに、その功績を偲び、中央図書館と滝野川図書館にて追悼コーナーを開設しています。　　【北区立中央図書館】

作家：内田 康夫氏

・開催期間：平成 30 年 3 月 20 日（火）～4 月 25 日（水）
・展示場所：中央図書館 1 階　総合カウンター前
滝野川図書館　入口左側
※ 内田氏への追悼メッセージもお受けしています。